

総括表(医療施設)

【医療政策部所管関係】

施設種別(数)・施設名		指定管理者名	評価					総合評価	特記事項	要改善事項等
			水準を上回る (2点)	水準どおり (1点)	水準を下回る (0点)	加点	合計点	S : 31点以上 A : 29点以上30点以下 B : 21点以上28点以下 C : 20点以下		
1	東京都 リハビリテーション 病院	公益社団法人 東京都医師会	3／21	17／21	1／21	4	27	B	○コロナ禍により落ち込んでいた診療実績は回復傾向にあり、病床利用率、リハビリ単位数、診療収入などいずれも前年度を上回った。 ○患者の支払方法の利便性の向上のためクレジットカードや電子マネーの取扱いを開始した。 ○復職を想定した就労両立支援の機能を強化するため、院内の多職種で構成する両立支援チームを発足させ、活動を開始した。 ○能登半島地震に伴うJRAT要請を受け、PT・OT・事務で編成したチームを被災地へ派遣し、現地の支援活動を実施した。	○年度協定に基づく調定額等の通知について、協定に定める期限を超過しており、都監査事務局及び会計管理者の指摘を受けた。このため、診療収入のうち、窓口分と基金分の調定を分けて行うこととする年度協定の変更を行い、それぞれの通知期限を遵守するよう改善した。
2	東京都立 心身障害者口腔 保健センター	公益社団法人 東京都歯科医師会	3／21	16／21	2／21	3	25	B	○診療事業においては、専門スタッフを揃え、地域の医療機関では受入れの難しいスペシャルニーズのある患者に対応している。必要に応じて、全身麻酔法や静脈内鎮静法等により、安全で質の高い歯科医療サービスにも積極的に取り組んでいる。令和5年度は共に計画値を上回る実績件数となった。(全身麻酔:計画156件・実績177件、静脈内鎮静法:計画404件・実績769件) ○また、患者の状態や要望に応じて、住み慣れた身近な場所で治療を継続できるよう、地域移行計画書を作成し、協力医療機関を紹介する等、患者に寄り添った歯科医療を提供している。 ○研修事業においては、地域で支える障害者歯科保健医療の推進に向けて、歯科医師や歯科衛生士に加え、医師や看護師、介護士等の医療職・介護職、家族や障害者福祉施設の職員等を対象とした多様な研修カリキュラムを計画し、実施している。障害者福祉施設等については、希望に応じて、出張研修(地域派遣研修)を実施するなど、受診促進を図っている。(R5年度実績:全20コース、受講者延べ1,911人)	○定例監査において、徴収事務委託に係る例月の使用料の調定額等に関する都への報告が、年度協定で定める期間内から恒常的に遅滞している点を指摘された。調定額の報告を窓口分と基金分で分けて行う等、年度協定を徴収事務の実態に即した内容に改定し、期間内の報告を徹底するよう指導し、改善した。 ○私人に対する収支事務委託に伴う検査において、窓口収入を都に納付した際の領収書(原本)紛失と現金出納簿の誤記載に関する指摘を受けた。領収書の管理方法を見直すとともに、両事務について、職員によるダブルチェックを徹底する等、改善を図った。

評価シート(医療施設)

施設名 (所在地)	東京都リハビリテーション病院 (東京都墨田区堤通2-14-1)	施設種別	医療施設
指定管理者	公益社団法人 東京都医師会		

【評価項目】

大項目	中項目	確認項目	評価水準	評価				
				配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点	評価理由
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか						
		1	○人員配置は適切か	○法令等に基づく職員配置基準どおりに適切に配置されている ○変更があった場合、事前に都に報告している	×1		○	基本協定の定めに従い、法令等に基づく人員を適切に配置している。
		2	○業務の履行は適切か	○患者状況に応じた診療・看護計画の策定・記録を行っている	×1		○	○良質かつ高度な回復期リハビリテーションを提供するため、入院前（紹介元病院の記録）から退院後フォローまで、患者・家族の意向を確認しながら、患者の症状や生活背景に応じて、多職種がその専門性を活かし、連携して、診療・リハビリ計画等の策定に関わっている。
		3	・適切な医療が提供されているか	○患者中心の医療が推進されている。 ○患者の意向（意見・要望・苦情）を把握し、適切に対応している	×1	○		
		4		○プライバシー保護等個人の尊厳を尊重している	×1		○	
		5		○医事・診療報酬請求事務の適切な管理を行っている	×1		○	
		6		○業務の標準化を図っている	×1		○	
		7	○施設等を常に良好な状態で維持管理（軽微な修繕及び整備を含む）しているか	○患者に対する事故等の防止に努めている ○万が一事故が発生した場合には、迅速かつ適切な措置を講じている	×1		○	○意見投書箱を設置するほか、退院時患者アンケートや外来患者アンケートを実施し、全て院長をはじめ幹部に報告される仕組みが確立している。苦情の事実確認や現場からの報告、要望に対する回答など全件を幹部が確認・承認した後、院内に掲出している。患者からの要望には、可能な限り対応している。
		8		○基本協定、年度協定で定める「施設及び付帯設備の管理に関する要領」等に基づき、適切に管理している	×1		○	○各種マニュアルが整備され、有事の際は院長をトップにした対策委員会を発足させ、迅速な対応にあたっている。
	経営における社会的責任を果たしているか							
	9	○医療機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいるか	○医療機関の従事者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、職員の理解が深まるように取り組んでいる	×1		○	○法令に規定された研修の受講その他必要な規範や倫理について、毎年研修を実施している。（個人情報保護、コンプライアンス等）	
	10	○関係法令等が遵守されているか	○「東京都指定管理者制度に関する指針」Ⅲ8に基づき、協定で定める受託施設として守るべき法律・条令等を遵守し、適切に施設を運営している	×1		○	○法令に則った委員会の設置と、議事録の職員周知を通じ、病院職員として必要な情報の共有化を図っている。	
	法令等の遵守、組織マネジメント	個人情報保護、報告等は適切になされているか						
		11	○情報の保護、共有に取り組んでいるか	○事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている ○個人情報の管理に関し定期的に点検を行っている	×1		○	○個人情報保護の研修の実施や、「個人情報管理委員会」による定期点検を行っている。
		12	○医療サービス情報を提供しているか	○提供する情報を常に最新のものになるよう見直している ○提供する情報の表記や内容を分かりやすいものになっている	×1		○	○電子カルテシステムは、関係する医療職が患者の診療情報等を共有することができる一方、外部に対する情報管理を徹底している。ランサムウェアなどの対策として、遠隔サーバへのバックアップ機能を構築している。
		13	○都への報告は適時、適切になされているか	○月例報告等、都への定例的な報告を適切に行っている ○事故等が発生した場合、必要な措置を取った上で速やかに報告を行っている ○都による報告の聴取及び調査に対する対応を適切に行っている	×1		○	○ホームページの内容を定期的に更新するほか、広報誌を通じて、病院の特色や事業の取組などをわかりやすく発信している。 ○年度協定に基づく調定額等の通知について、協定に定める期限を超過しており、都監査事務局及び会計管理者の指摘を受けた。このため、診療収入のうち、窓口分と基金分について調定を分ける年度協定の変更を行い、報告時期を遵守するよう改善した。
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか						
		14	○リスクマネジメントに計画的に取り組んでいるか	○リスクに対し必要な対策を取っている ○関係法令の遵守体制を整備している ○所定の委員会を開催し、情報共有・事故防止策の検討等を行っている（年1回）	×1		○	○法令等に基づく委員会を設置し、定期開催（月1回）しており、会議内容は全ての職員に周知している。 ○インシデント報告数の多い「転倒・転落」に関しては、患者本人の自発的注意を促すため、パンフレットや自己点検チェックリストを作成している。
		15	○施設内外の構造物、設備等の安全の確保や防災等の取組を行い、利用者の安全を確保しているか	○法令等に定める基準により適切に管理している ○防災訓練を実施している（年1回） ○医療機器等に関する職員への研修を実施している	×1		○	○同一の患者に続けてインシデントが発生した場合には、第一報として速やかに報告を行い、第二報としてさらに詳細な分析・対策を行っている。 ○防災マニュアルが整備され、災害時のライフライン、食料等が十分に備蓄されている。事業実施計画に基づき、防災訓練を年2回実施している。
	財務・財産の状況	適切な財務運営・財産管理が行われているか						
		16	○経理処理・経理に関する書類等の管理は適切か	○法人が行っている他の事業と経理を明確に区分している ○契約帳簿及び収支を明らかにした経理帳簿等を適切に整備・保管している	×1		○	○基本協定、年度協定及び事業実施計画に基づき、適切な経理処理、物品管理及び整備保管がなされている。
		17	○都有財産（物品など）の管理は適切か	○保全物品整理簿を整備している ○使用不適品、亡失品等を報告している	×1		○	

事業 効果	事業の 取組・ サービス 内容の 向上	求められる水準のサービスの提供・サービス向上に向けた創意工夫をしているか						
		18	○サービス向上等のために人材を育成しているか	○患者へのサービス向上等ため、研修計画を定め、計画に基づく人材育成を実施している	×1		○	○就業年数などキャリアに応じたラダー研修を実施しているほか、専門資格の取得に向けた計画的人材育成を図っている。
		19	○サービス向上に向けた創意工夫をしているか	○患者への医療サービス向上に向けた先進的な取組や創意工夫を行っている	×2	○		○より高度・専門的医療の提供に向けて、多職種による研究活動を推進している。 ○通常の急性期病院に比べ、入院が長期にわたることに配慮し、患者が快適に過ごせるよう常に工夫している。 ○退院時患者アンケート等で要望の多かった内容について改善を図った。 ○復職を想定した就労両立支援の機能を強化するため、院内の多職種で構成する両立支援チームを発足させ、活動を開始した。
		20	○患者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用し、サービス内容が向上しているか	○患者満足度が70%以上である	×2	○		○退院時患者アンケート等による患者の総合満足度は、4段階評価で上位2項目合わせて92.3%と高評価であった。 ○病院前の高架下の清掃ボランティアとして建設局より承認を受け、令和5年7月より毎週水曜日に職員有志による清掃を行っており、地域の環境美化に貢献している。
		行政等と連携を図り施設の目的を達成しているか						
		21	○行政や関係機関等と連携した事業を実施しているか	○年間事業計画等に基づき、都の政策と連動した事業や関係機関との連携強化を図っている	×1		○	○都内12圏域の地域リハビリテーション支援センターの中でも中核的な役割を担い、支援センター同士の情報共有や意見交換を行う連絡会を開催している。また、地域他施設の医療職向け研修会等を実施している。 ○能登半島地震に伴うJRAT要請を受け、PT・OT・事務で編成したチームを被災地へ派遣し、現地の支援活動を実施した。

特記事項	○コロナ禍により落ち込んでいた診療実績は回復傾向にあり、病床利用率、リハビリ単位数、診療収入などいずれも前年度を上回った。 ○患者の支払方法の利便性の向上のためクレジットカードや電子マネーの取扱いを開始した。 ○復職を想定した就労両立支援の機能を強化するため、院内の多職種で構成する両立支援チームを発足させ、活動を開始した。 ○能登半島地震に伴うJRAT要請を受け、PT・OT・事務で編成したチームを被災地へ派遣し、現地の支援活動を実施した。
要改善事項等	○年度協定に基づく調定額等の通知について、協定に定める期限を超過しており、都監査事務局及び会計管理者の指摘を受けた。このため、診療収入のうち、窓口分と基金分の調定を分けて行うこととする年度協定の変更を行い、それぞれの通知期限を遵守するよう改善した。

【一次評価結果】

評点	標準点	評価基準			
		S	A	B	C
	23点	31点以上	29点以上 30点以下	21点以上 28点以下	20点以下

一次評価 結果	得点	B
	27点	

【確認事項】

事業者の 財務状況	受託法人として十分な資産を有するなど、適切な財務状況が確保されている。
特命要件の 継続	特命ではない。

評価シート(医療施設)

施設名 (所在地)	東京都立心身障害者口腔保健センター (東京都新宿区神楽河岸1－1)	施設種別	歯科診療所
指定管理者	公益社団法人東京都歯科医師会		

【評価項目】

大項目	中項目	確認項目	評価水準	評価					評価理由
				配点	水準を上回る 2点	水準どおり 1点	水準を下回る 0点		
適切な 管理の 履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか								
	1	○人員配置は適切か	○法令等に基づく職員配置基準どおりに適切に配置されている ○変更があった場合、事前に都に報告している	×1		○		○関係法令等に基づき、適切に配置されている。変更があった場合は、適宜、都に報告している。	
	2	○業務の履行は適切か ・適切な医療が提供されているか	○患者状況に応じた診療・看護計画の策定・記録を行っている	×1		○		○地域の歯科診療所では受入れが難しいスペシャルニーズのある患者に対応している。 ○患者一人ひとりの状況に応じた診療計画を策定することで、個人の尊厳を尊重した診療を行っている。	
	3		○患者中心の医療が推進されている。 ○患者の意向(意見・要望・苦情)を把握し、適切に対応している	×1	○			○全身麻酔法や静脈内鎮静法等の活用により、不安や恐怖心等、患者の負担を軽減しつつ、安全かつ確実な治療に努めている。令和5年度は、患者の要望を踏まえ、静脈内鎮静法の予約枠を拡充し、計画値を上回る実績件数となった。	
	4		○プライバシー保護等個人の尊厳を尊重している	×1		○		○患者の状態や要望に応じて、住み慣れた身近な場所で治療を継続できるよう、地域移行計画書を作成し、協力医療機関を紹介する等、患者に寄り添った歯科医療を提供している。	
	5		○医事・診療報酬請求事務の適切な管理を行っている	×1		○		○患者アンケートの結果では、職員の接遇(態度、言葉づかい、説明等)について、満足度約99%と非常に高い評価を得た。また、寄せられた意見や要望は、関係する各委員会で協議し、可能な限り対応する等、患者意向の把握に努め、適切に対応している。	
	6		○業務の標準化を図っている	×1		○		○医療安全管理指針に基づき、各種マニュアル(医薬品業務手順書、消毒室マニュアル、感染症対策マニュアル等)を策定し、業務の標準化を図っている。また、必要に応じて見直すとともに、法令改正等には速やかに対応している。	
	7		○患者に対する事故等の防止に努めている ○万が一事故が発生した場合には、迅速かつ適切な措置を講じている	×1		○		○事故発生時には、緊急時対応マニュアルに基づき、必要な措置を講じた上で、速やかに都等の関係機関へ報告するなど、適切に対応している。	
	8	○施設等を常に良好な状態で維持管理(軽微な修繕及び整備を含む)しているか	○基本協定、年度協定で定める「施設及び付帯設備の管理に関する要領」等に基づき、適切に管理している	×1	○			○協定等に基づき、管理されている。 ○医療機器保守管理マニュアルに基づいて、医療機器の年間保守計画を策定することで、保守点検を徹底している。 ○施設設備・機器整備委員会を月1回・年12回開催している。本委員会の構成委員は、幹部職員だけでなく、職種や職級によらない多様なメンバーとしており、現場の声を反映した効率的・効果的な施設設備の整備・保守や各種機器の調達・更新が可能である。また、必要に応じて、患者アンケートの要望等を検討・協議することで、患者の声にも迅速に対応することが可能である。	
	経営における社会的責任を果たしているか								
	9	○医療機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいるか	○医療機関の従事者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、職員の理解が深まるように取り組んでいる	×1		○		○障害者等のスペシャルニーズのある患者に対応するため、日々、法・規範・倫理を遵守し職務を行っている。	
10	○関係法令等が遵守されているか	○「東京都指定管理者制度に関する指針」Ⅲ8に基づき、協定で定める受託施設として守るべき法律・条令等を遵守し、適切に施設を運営している	×1	—	○		○受託施設として、守るべき法令を遵守し、適切に施設を運営している。		
管理 状況	個人情報保護、報告等は適切になされているか								
	11	○情報の保護、共有に取り組んでいるか	○事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている ○個人情報の管理に関し定期的に点検を行っている	×1		○		○個人情報の管理状況について、年2回の自己点検に加え、研修や医療安全委員会を開催するなど、個人情報を適切に保護、共有するため、取り組んでいる。 ○全職員対象の個人情報保護に関する研修を実施し、個人情報の管理体制及び事故発生時の報告体制に基づく取組を徹底している。令和5年度の個人情報保護研修では、歯科医師資格を持つ弁護士を講師に招き、個人情報の基本的な考え方や障害者歯科治療の特徴等を踏まえた研修内容により実施した。	
	12	○医療サービス情報を提供しているか	○提供する情報を常に最新のものになるよう見直している ○提供する情報の表記や内容を分かりやすいものになっている	×1		○		○協定に基づく定期報告、医療法等に基づく届出等を適切に行っている。 ○事故発生時の連絡チャート表に基づき、ヒヤリ・ハット事例について、都に報告している。	
	13	○都への報告は適時、適切になされている	○月例報告等、都への定例的な報告を適切に行っている ○事故等が発生した場合、必要な措置を取った上で速やかに報告を行っている ○都による報告の聴取及び調査に対する対応を適切に行っている	×1			○	○定例監査において、徴収事務委託に係る例月の使用料の調定額等に関する都への報告が、年度協定で定める期間内から恒常的に遅滞している点を指摘された。調定額の報告を窓口分と基金分で分けて行う等、年度協定を徴収事務の実態に即した内容に改定し、期間内の報告を徹底するよう指導し、改善した。	

	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか						
		14	○リスクマネジメントに計画的に取り組んでいるか	○リスクに対し必要な対策を取っている ○関係法令の遵守体制を整備している ○所定の委員会を開催し、情報共有・事故防止策の検討等を行っている(年1回)	×1		○	○医療安全委員会(年12回)において、インシデント・アクシデント事例を定期的に報告・検討する機会を設けることで、被害や影響の大小によらない各職員からの事故報告を促すとともに、委員会での速やかな事故防止策の検討、職員への周知・徹底により、事故の未然防止・再発防止に努めている。 ○令和4年度に発生した排水管劣化による機械室(8階)の漏水事故を踏まえ、都民への影響が大きい診療フロア(9階)の給排水管の状況調査を実施した。管の劣化やゴミの堆積等はなく、直ちに更新等が必要な状態ではないことを確認した。
		15	○施設内外の構造物、設備等の安全の確保や防災等の取組を行い、利用者の安全を確保しているか	○法令等に定める基準により適切に管理している ○防災訓練を実施している(年1回) ○医療機器等に関する職員への研修を実施している	×1		○	○防災訓練として、セントラルプラザビル合同消防訓練に加え、独自に避難訓練を実施している。本訓練は、9階という立地を踏まえた全身麻酔患者の避難対応など、避難器具を用いて、様々な患者の状態を想定した実働訓練として行っている。また、全職員による避難器具の使用方法や防災用品の確認を実施する等、実災害時の円滑な活動に向けて備えている。 ○全職員を対象とした緊急時対応(人工呼吸・心肺蘇生の実施方法、窒息に対する応急手当等)に関する研修を実施している。
		適切な財務運営・財産管理が行われているか						
	財務・財産の状況	16	○経理処理・経理に関する書類等の管理は適切か	○法人が行っている他の事業と経理を明確に区分している ○契約帳簿及び収支を明らかにした経理帳簿等を適切に整備・保管している	×1	—	○	○指定管理料の会計処理については、特別会計を設け適切に管理している。 ○令和5年度は電子帳簿保存法改正、インボイス制度(消費税)への対応を行った。
		17	○都有財産(物品など)の管理は適切か	○保全物品整理簿を整備している ○使用不適品、亡失品等を報告している	×1	—	○	○私人に対する収支事務委託に伴う検査において、窓口収入を都に納付した際の領収書(原本)紛失と現金出納簿の誤記載に関する指摘を受けた。領収書の管理方法を見直すとともに、両事務について、職員によるダブルチェックを徹底する等、改善を図った。 ○物品管理については、基本協定に基づき、適切に管理・報告している。
		求められる水準のサービスの提供・サービス向上に向けた創意工夫をしているか						
		18	○サービス向上等のために人材を育成しているか	○患者へのサービス向上等ため、研修計画を定め、計画に基づく人材育成を実施している	×1		○	○新人研修では、障害者歯科に関する基礎知識や実習、救急時の対応等、センターの歯科医師、歯科衛生士として必要な資質・能力を身に付けるためのカリキュラムを計画し、実施している。 ○また、年間の研修計画を策定することで、提供する歯科医療サービスの向上に向けて、着実な人材育成に取り組んでいる。
事業効果	事業の取組・サービス内容の向上	19	○サービス向上に向けた創意工夫をしているか	○患者への医療サービス向上に向けた先進的な取組や創意工夫を行っている	×2		○	○全身麻酔法や静脈内鎮静法等を活用し、患者負担の軽減に努めている。患者の予約状況を踏まえ、適切な時期に治療できるよう、静脈内鎮静法の予約枠を拡充した(1日3件から5件に変更)。 ○待合室の利用環境を向上させるため、患者や同伴者が利用できる無料Wi-Fiを整備した。
		20	○患者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用し、サービス内容が向上しているか	○患者満足度が70%以上である	×2	○		○診療と環境・設備等に関する満足度(患者アンケート)について、共に約94%と高い評価を得ている。
		行政等と連携を図り施設の目的を達成しているか						
		21	○行政や関係機関等と連携した事業を実施しているか	○年間事業計画等に基づき、都の政策と連動した事業や関係機関との連携強化を図っている	×1		○	○センターの診療事業や研修事業等は、東京都歯科保健推進計画(柱3「地域で支える障害者歯科保健医療の推進」)を推進するための取組として位置付けており、都や関係機関等と連携し、取組を進めている。 ○障害者が身近な地域で定期的に口腔健康管理を行うことができるよう、センター内の研修会場を活用して、歯科医師や歯科衛生士を対象に障害者への対応方法等を学ぶ基礎的な研修や臨床実習を実施している。 ○センターが実施する臨床実習を修了した歯科医師が所属する医療機関を「協力医」に登録し、患者の紹介先等として連携している。また、センター内の案内板やホームページで紹介することで連携を推進している。 ○家族や障害者福祉施設職員、特別支援学校職員等に対して、障害者が抱えるリスクや口腔ケア等に関する知識を普及する研修会を実施している。また、希望に応じて、施設等への出張研修にも対応している。

特記事項	○診療事業においては、専門スタッフを揃え、地域の医療機関では受入れの難しいスペシャルニーズのある患者に対応している。必要に応じて、全身麻酔法や静脈内鎮静法等により、安全で質の高い歯科医療サービスにも積極的に取り組んでいる。令和5年度は共に計画値を上回る実績件数となった。(全身麻酔:計画156件・実績177件、静脈内鎮静法:計画404件・実績769件) ○また、患者の状態や要望に応じて、住み慣れた身近な場所で治療を継続できるよう、地域移行計画書を作成し、協力医療機関を紹介する等、患者に寄り添った歯科医療を提供している。 ○研修事業においては、地域で支える障害者歯科保健医療の推進に向けて、歯科医師や歯科衛生士に加え、医師や看護師、介護士等の医療職・介護職、家族や障害者福祉施設の職員等を対象とした多様な研修カリキュラムを計画し、実施している。障害者福祉施設等については、希望に応じて、出張研修(地域派遣研修)を実施するなど、受診促進を図っている。(R5年度実績:全20コース、受講者延べ1,911人)
要改善事項等	○定期監査において、徴収事務委託に係る例月の使用料の調定額等に関する都への報告が、年度協定で定める期間内から恒常的に遅滞している点を指摘された。調定額の報告を窓口分と基金分で分けて行う等、年度協定を徴収事務の実態に即した内容に改定し、期間内の報告を徹底するよう指導し、改善した。 ○私人に対する収支事務委託に伴う検査において、窓口収入を都に納付した際の領収書(原本)紛失と現金出納簿の誤記載に関する指摘を受けた。領収書の管理方法を見直すとともに、両事務について、職員によるダブルチェックを徹底する等、改善を図った。

【一次評価結果】

評点	標準点	評価基準			
		S	A	B	C
	23点	31点以上	29点以上 30点以下	21点以上 28点以下	20点以下

一次評価 結果	得点	B
	25 点	

【確認事項】

事業者の財務状況	受託法人として、十分な資産を有するなど、適切な財務状況が確保されている。
特命要件の継続	特命ではない